

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2017 年 1 月号 (第 101 号)

発行責任者 稲村 洋二

謹
賀
新
年

並木 啓子作 木目込み人形『酉』 仲山 富夫/撮影

発足 10 年新しい歴史を拓こう

広報部長 海老澤愛之助

ところざわ倶楽部の皆さま明けましておめでとうございます。本年も、ところざわ倶楽部へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

年頭に当たり昨年を振り返りますと、イギリスの EU 離脱・米国大統領トランプ氏の誕生で世界の政治経済の先行きが不透明になっております。また、国内においては、リオオリンピックでの選手達の活躍、熊本地震そして東京都の一連の不祥事等々いろいろな事があり過ぎる一年だったと思います。このような中、ところざわ倶楽部は本年 10 周年を迎え記念事業を行います。

1. 「ハーメルンの笛吹きおとこ」の公演
2. シンポジウムの開催
3. 10 周年記念誌の刊行 を企画しております。

1、2 では実行委員会に係るメンバーを募り、ところざわ倶楽部の総力を結集して事業を進めてまいります。

会員個々の得意分野で是非力を発揮していただきたいと思っております。それは対外的にも「ところざわ倶楽部」の発信力が試される事になるかと思っておりますので、会員皆さまのお力で成功に導かれる事を期待しております。

10 年一昔と申しますが、ところざわ倶楽部も誕生して 10 年、会を取り巻く環境も変わっていますが、「生涯学習理念のもと、豊かな市民社会の実現をめざし地域に貢献する」の会則のもと活動を担っていただきたいと思っております。以前、コラムでケネディーの演説を引用されておりましたが、ところざわ倶楽部も発足後 10 周年、自分自身は会のために何ができるのかを考えては如何でしょうか。倶楽部は会員の方々に育ててもらいたいのです。会の魅力は会員自らが創っていくものであると思っております。

本年も会にとって充実した年であることと皆さまのご多幸をお祈りいたします。

ところざわ倶楽部 第10期 新会員歓迎！

会員限定の「新春の集い」～今年も「素晴らしき」出会いを～

事業部長 佐藤 重松

第10期は、ところざわ倶楽部10周年の記念行事を基軸としながら、この節目にあたって「生涯学習のテーマ」とく地域に学びを広げ「地域の福祉資源」として、超高齢社会を支える側の担い手として、また、会員の“加齢に伴う課題”と“楽しく齢を重ねていく”知恵の創出を意識して取り組みたいと思います。

第10期第1回事業として、新会員の皆さんの歓迎と会員相互の親睦を図る「集い」を開催いたします。なお、新会員の皆様、「集い」終了後、懇親会を開催いたしますので、奮ってご参加ください。

日時：平成29年1月27日（金）

会場：航空公園内 日本庭園茶室「彩翔亭」

住所：所沢市並木1-3 ☎04-2991-4310

＝入場無料、申し込み不要、ぜひ参加を＝

＜記＞

受付・開場：午後1時

開演：午後1時30分～午後3時10分

演目：「長唄三味線」・「落語」

主催：ところざわ倶楽部

(問い合わせ) 事業部 佐藤 090-5412-5760

第1部 長唄三味線「綱館」他

出演：田口 拓（東音会）・土方ゆかり

上方長唄。端唄・小唄などに対して、江戸初期に上方で行われた長編の三味線歌曲。歌舞伎舞踊の伴奏音楽として、大薩摩やその他の浄瑠璃の節調、当時の流行歌なども取り入れ発達。その後「吾妻八景」のように歌舞伎を離れた曲もつくられる。

第2部 落語2題

出演：「まんじゅう怖い」 水々亭めだか

(所沢市民大学22期修了生)

「長 短」 のんき家右勝

(富岡落語研究会)

12月度 理事会報告

総務部長 石堂 智士

12月12日（月）開催

1. 会長挨拶

- 1) 市民大学25期企画委員長 川上紀春氏を紹介
理事会推薦で広報担当に。拍手で承認
- 2) 会則改定に伴うサークル一般会員向けに、趣旨説明と倶楽部入会案内を作成
- 3) 書面記載の細則一部改訂を質疑応答し、倶楽部会員とサークル会員の一致のため、字句「原則として」を省き、4条4項の改定文「サークルは会員で構成する」を承認。この書面をサークル代表者に送り、一般会員の入会を勧める

2. 総務部案件

- 1) 10周年記念事業の2実行委員会設立

ハーメルン公演は稲村会長の下、準備会を開催
シンポジウムは佐藤部長の下、事業部で企画
記念誌は石堂部長の下、総務部で企画
会員報告 会員数256名（新入会員30名含む）

3. 事業部案件

- 1) 新入会員歓迎「新春の集い」開催の協力要請
日時：平成29年1月27日（金）午後1時
場所：航空公園 茶室「彩翔亭」

4. 広報部案件

- 1) 広場12月号の発行報告
- 2) 広場1月号編成案の依頼

生涯学習におけるところざわ倶楽部の役割

社会教育・生涯学習研究所所長 細山 俊男



1999年4月に所沢市生涯学習センターが設置され、私は小手指公民館分館から異動してきました。その当時市民大学の担当は中央公民館でしたが、機構改革で市立公民館の連絡調整機能が生涯学習センターに移ると同時に市民大学の担当も生涯学習センターに移って、

私が担当することになりました。ちょうど8期の準備からでした。

1993年に始まった市民大学の担当はもともと社会教育課でした。当時は企画委員会と運営委員会に分かれていて、企画委員会は学識経験者で構成され、市民が運営委員会を構成していました。しかし、中央公民館に移って予算が削減されて、学識経験者による企画委員会は廃止されました。その後公民館職員が企画にあたっていたようです。

講座の企画は市民参加で行うやり方をとっていましたので、私は7期の運営委員会のみなさんに企画委員会への参加を呼びかけたところ、大変なお叱りを受けることになりました。なぜ市民が企画までやらなければならないのか、と。当時の市民大学の「めざすもの」の第一に「市民参加による市民大学」とあったのですが、市民不在の企画ではどうにもなりません。

そこで、公民館で企画委員の経験を持つ中村直子さんたちに呼びかけ、企画委員会に参加してもらいました。市民が企画することの意義を確認し合い、なんとか立ち上げることができました。そのときの状況はその後の企画委員会では想像もできないでしょう。

初期の市民大学は人文科学系、社会科学系、自然科学系の3講座で構成されていましたが、新しい企画委員会で人間学、現代学、地方自治学（のちに地域学）の3講座にリニューアルしました。一般教養にとどまらない、実際生活に即した「新しい学び」への転換を意図したのです。

10期の企画委員会では、「講義を聴くだけで学んだことになるだろうか」という市民大学の根本を問う議論が展開され、聴くだけでなく調査・研

究を行うグループワークが導入されました。初めは講義が2/3、グループワークが1/3でしたが、13期になると講義とグループワークが半々になりました。こうして主体的に学ぶグループワークが市民大学の特徴になりました。

しかし3講座が専門分化していくと、3つにわかれている意味が薄れ、また他の講座も聴講したいという要望もあったりして、市民大学の見直しが必要になりました。

そこで13期の企画委員をメンバーに「市民大学の新しいあり方検討委員会」を立ち上げ、検討した結果が今日の2年制の市民大学です。1年次は総合コースで2年次はグループワーク。検討委員会の委員長は甲田和巳さんでした。

2年制は2007年から14期の2年次と15期の1年次とが同時進行し、まるで市民大学が2つ始まったようでした。15期の1年次は会場が早稲田大学キャンパスであったこと、また土曜日の午後開催ということもあり、比較的若い人が参加されました。2年制になって一番困ったことは会場問題です。最初の頃は公民館を会場にしていたのですが、連続して確保することが難しく、旧庁舎と体育館、生涯学習センターが主な会場になり、開講式だけは松井公民館でした。2009年に生涯学習推進センターが開所してから会場問題はすっかりなくなりましたが、事務局は田中和子さんと私で、会場確保のあの苦労は何だったのでしょうか。

「市民大学の新しいあり方検討委員会」は引き続き、「市民大学修了生のネットワークづくり」の課題に取り組みました。これが「ところざわ倶楽部」になるわけですが、2007年11月に発足します。14期の修了生が最初のメンバーです。会長は佐藤八郎さんでした。

市民大学のめざすものに「地域に学びをひろげる」とありますが、ところざわ倶楽部はこれを受けて存在しています。学びとは何か。ユネスコ『学習権宣言』（1985）には、学びは「人々を、なりゆきまかせの客体から、自らの歴史をつくる主体に変えていくもの」と謳われています。

ところざわ倶楽部10周年、「広場」も101号を迎えるこの時代に、私は人々の学びが平和な社会づくりにつながることを願ってやみません。

葵の会 古典講座

2月16日(木)より 論語(孔子)を開始!

新年度 葵の会講座は、7年間にわたり古典を教わり、サークルの顧問をお願いしています小川達雄



先生に孔子の「論語」を学ぶことに決定しました。今まで源氏物語、平家物語、万葉集、方丈記等日本の代表的な古典を学んできましたが、今年は歴史的に、日本人に大きな影響を与え、日本人の心の拠り所となっている論語に挑戦してみたいと思っています。

後半は絵本、アニメ、映画等で描かれ、「かぐや姫」というタイトルでお馴染みの「竹取物語」を予定しています。日本最古の物語で童話として読んだストーリーがどのように描かれているのか楽しみです。古典といってもそんなに難しいことをやっているわけではありません。分からないなりに、古来の日本の心に触れては心がなごみます。また古典だけでなく、能、狂言鑑賞や、文学散歩、秩父、下町散策等楽しみながら懇親行事も行っています。ご関心のある方は気楽にご参加ください。(葵の会 池田新八郎)



—論語講座開設について— 講師 小川達雄



つい先頃、所沢図書館の新書の棚を見ましたら、孔子関係の本が10冊きちんと並んでいるのに驚きました。それなら論語はほかの棚や書庫にどのくらいあるのかと調べてみますと、各社の250冊が続いていました。やはり2500年の間、長く読み継がれてきた本は違いますね。その本がこんなにもたくさんあるということは、いつの時代であっても、論語は多くの人々の精神的な支えだった事実を、雄弁に語っていると思います。わたしも、葵の会の古典講座を担当させていただいた当初から、いずれ後にはご一緒に、論語の勉強ができればいいな、と思っておりました。その入口は「仁」であれ、「温故知新」であれ、孔子の言葉の中から、なにか刺激を受けたいと考えたのです。

まず音読してみて、身の回りのことから振り返り、進んではその時代のことも念を押してみましよう。ご参加をどうぞ!

サークル活動計画

激動のアジアを考える

2016年のアジアの情勢は、激動の時代に突入したといっても過言ではない諸問題が顕在化しました。2017年はそれがどのように影響してくるのか注視することになると考えています。

2016年のアジア研究会では、台湾の蔡英文総統就任に関連して島川謙二氏に日台関係の歴史や対中関係をテーマに、ところざわ倶楽部の田中建夫氏には最近のミャンマー情勢を、福田晴男氏にはプミポン国王崩御後のタイ訪問報告を、島川氏にはカンボジアアンコールワット旅行記、私のチベットや最近の中国情勢、安田好子さんの中国留学旅行記など盛り沢山の内容で議論し、意見交換をしてきました。

特に12月定例会では、プミポン国王崩御後に、福田氏がかつての赴任地タイを訪問され、プミポン国王がタイ国民にとって父親のように敬愛されている様子を写真で紹介してもらいました。18歳から在位70年におよぶプミポン国王の業績や人柄は、すべての国民が喪に服していることで納得できるものでした。写真は福田氏が撮影した「王宮前での

アジア研究会 玉上 佳彦

タイ国王弔問の列」です。



2017年のアジア研究会では、アメリカのトランプ大統領就任にともなうアジア諸国の諸問題、特に今後の米中関係、米台関係、日中関係、日韓関係の行方や、韓国朴槿恵大統領の弾劾問題、南シナ海への中国海洋進出などの諸問題が山積している状況をふまえて、考えて

いきたいと思っています。これまでに、留学生や所沢在住のアジアの人々との交流を進めてきましたが、より活発に行い、草の根レベルでの交流・親善にも力を入れていきたいと思っています。

アジア研究会では、他のサークルのメンバーの参加を歓迎しております。ご興味のある方は是非ご参加いただき、意見交換をさせていただきたいと考えております。

「出会い」
第18回

「高校三年生」は青春のときめきソング

所沢シニア世代地域デビュー支援の会 田口 元也

ところざわ倶楽部「広場」の「出会い」シリーズは毎号楽しく読ませていただいております。そして人にはいろいろな出会いがあるものだと感心しておりました。そんなところへ突然原稿依頼が飛び込んできました。電話を受けながら「さて、自分にはときめくような出会いはあったらどうか」と思いながら返事に迷ってしまいました。これまで原稿を依頼する側にいたものにとっては、受ける側の気持はわかっていたつもりでも、どうやって丁寧に断るか気の利いた言葉が見つからずお引き受けしてしまいました。

さて、「出会い、出会い…」と思案に暮れていましたが、人でなくてもなんでもいいと咄嗟に思いついたのが、ちょうどラジオで流れていた舟木一夫の「高校三年生」、よしこれでいこうと非常に安易ですがテーマをこの学園ソングに決めました。

“ 赤い夕陽が 校舎をそめて…”ではじまる



高校三年間通った母校の木造校舎

「高校三年生」、たしか高校一年生のころだったと思います。二年生時には東京オリンピックがありました。高校時代の一年生は汽車通学、二年時からは町医者友人宅で下宿生活、部活は「軟式庭球部」、校則は厳しく詰め襟の学ラン、5分刈の坊主頭、高下駄をカランカランと鳴らしての通学でした。

地元には女子高校があり興味はあっても先輩の目が厳しく、見た目はガチガチの硬派でした。そんななかでの「高校三年生」のリリースでした。学校あげての学園祭は前夜祭のファイヤーストームにはじまり、ピークは学校の裏山での地元の女子高校生を招いての「フォークダンス」です。今でいう「合コン」です。もうそんなときは先輩の目なん

て気にしてなんかられません。“ ぼくら フォークダンスの手をとれば 甘く匂うよ 黒髪が ”の



学園祭でフォークダンスをした学校の裏山

世界にすっぽりと浸っていました。そして、舟木一夫の学園ソングは「修学旅行」「学園広場」とつづきました。まだカラオケなどない時代ですが、部活の合宿、クラス会、地元高校との交流会などで学園ソングをみんなで合唱し夢のような青春を謳歌しました。

高校時代バイブルのようにして読みあさったのは、作家石坂洋次郎の作品です。母校の高校がまだ旧制中学時代、国語の教員をしていたころ執筆していたという「若い人」、戦後、新しい時代を生きる若者を明るくえがいた「青い山脈」「山と川のある町」「寒い朝」などの小説をわくわくしながら読んでいました。石坂洋次郎の代表作品は、石原裕次郎、浅丘ルリ子、吉永小百合などの出演による映画化にもなりました。これも青春時代の思い出です。

高校時代は1963年から65年の3年間です。その後の大学時代は学園闘争の渦中でしたので、高校時代は本当に思い出多い良き青春時代でした。カラオケでは今やリクエストしなくても仲間がかならず「高校三年生」をかけてくれます。そして最後の最後のエンディングに「青い山脈」を合唱してお開きです。

ちなみに、東京都世田谷区にある私立松蔭高校には「高校三年生」の歌詞が書かれた歌碑があるそうです。なんでもボロボロの校舎で赤い校舎のモデルとなったとか、そのうち訪ねてみようかと思っています。また、郷土の横手公園（お城山公園）にある石坂洋次郎の文学碑には「小さな完成よりもあなたの孕んでいる未完成の方がはるかに大きなものがあることを忘れてはならない」と刻んであります。

所沢の雑木林

早稲田大学基幹理工学部 大堀 聰 (地域の自然)



(1) 所沢の緑-雑木林

さいたま市:人口約122万人、森林率(林面積/市面積)2%、川口市 約56万人、1%、川越市:34万3千人、3%、所沢市:34万2千人、9%、越谷市:32万6千人、0%、草加市:24万4千人、1%、春日部市:23万7千人、1%、上尾市:22万4千人、5%、熊谷市:20万3千人、3%、新座市:15万6千人、6%と、所沢市の森林率が高いことがわかる。

所沢の森林率の約80%は雑木林である(所沢市の環境 所沢市)。狭山湖の南岸側の水源林の1/5ほど、西武園ゴルフ場の周囲、菩提樹(ぼだいぎ)、八国山、鳩峰公園、早稲田大学の進出と引き換えに公有地化された埼玉いきものふれあいの里センターと5つのスポット(48.5ha)、緑の森博物館入間市分(65ha)・所沢市分(20.5ha)、狭山湖北岸の水源林、早稲田大学、トトロのトラスト地、大聖寺墓地予定地周辺、三ヶ島地区に点在する残存林、中富・下富、カルチャーパーク、柳瀬川沿いなどに雑木林が残されており、合計面積は約530ha(5.3km²)になる。残りの130haは屋敷林や植栽林である。

(2) 武蔵野台地(扇状地)-貧栄養の土壌

所沢には狭山丘陵と三富、隣接する狭山市(人口約15万6千人、県内11位、森林率8%)には三富の手本となった水野新田と三富、入間市(人口約15万人、県内13位、15%)には狭山丘陵と加治丘陵、それぞれに雑木林がある。

雑木林が残る三市は、武蔵野台地上にある。武蔵野台地は、四方を囲む入間川、荒川、多摩川との低地の間に急傾斜な段丘崖が続いているが、独立した地形ではない。60万年前(狭山丘陵が地上部に出た)と20万年前の2度、氷河期の海水面の低下により扇状地が形成された。

現在の武蔵野台地は、13万年前の温暖期の海進(氷が溶け海水位が上る)による扇状地の拡大、噴火による火山灰の堆積(ローム層の形成)、氷河期の侵食(谷が刻まれる)によって形成された(武蔵野に残る旧石器人の足跡・砂川遺跡 野口淳)。多摩川が削った砂礫は流れとともに地表を下り、地表だけではなく川底へも浸み込むため、雨の少ない季節には伏流になる。火

山灰は関東ロームであり、リン酸分や腐植が少ない地力の低い土壌であるため、武蔵野台地は土壌も水源も貧弱(貧栄養)だった(関東平野の平地林 犬井 正)。

(3) なぜ雑木林が必要なのか-堆肥による肥沃化

大きな河川は洪水が起これば氾濫原となり、灌漑の役割や豊富な栄養を供給することになり、肥沃で生産力の高い土地を作る。しかし、武蔵野台地は、地下水位が低く、貧栄養土壌のため、堆肥による土壌の肥沃化と水源の確保が必要となる。

入間市は1611年、狭山市は1666年、所沢市は1694年に、雑木林・畑・家を一つとした新田開発が行われ、持続可能な利用(人と自然の共生)がされてきた。雑木林にはコナラ、クヌギなどの落葉樹が植栽され、適度な攪乱となる下刈りや落ち葉かきが行われ、カブトムシの幼虫やミミズが葉を食べ、糞のバクテリアにより、葉は堆肥になる。堆肥は肥料としては遅効性だが、イモの肥大、茎葉の生育、土壌の通気性、保水力の増大、乾燥・過湿条件の改善、根群の発達、肥料分の分解を早めて生育促進する。土壌の団粒構造が土壌の通気性や保水力、乾燥・過湿条件を改善した。



水分不足を改善するため、狭山丘陵から流れ出る不老川、砂川、東川などを灌漑用水としたり、堀兼や七曲にまいまいずの井戸が掘られた。

(4) これからの所沢-緑は守らなければなくなる

自然生態系が持つさまざまな働きのうち、人間生活に無償の恩恵をもたらすものを生態系サービスという。供給サービス:食品や薬品、水などの生産や提供、調整サービス:気候などの制御・調整、文化サービス:レクリエーション、審美価値、教育の精神的・文化的利益、基盤サービス:栄養循環・光合成による酸素の供給、保全サービス:生物多様性、環境保全などである。

緑が減少すると、生物多様性も減少し、自然環境への負荷(エコロジカル・フットプリント)が増すのは、地球規模、国、地域も同じである。

市民の思いが町の未来を作ることを忘れてはならない。

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

1. 葵の会 (池田新八郎 2940-0711)

1月12日(木) 10:00~13:00 中央公民館9号室
能 DVD鑑賞・総会 13:30~ 新年会(梅の花)

2月16日(木) 13:30~16:00 中央公民館
古典講座「論語」第1回 小川達雄先生

※ご興味のある方は気楽にご参加ください。

2. アジア研究会 (玉上 佳彦 090-2497-1076)

1月18日(水)13:30~16:30 中央公民館 定例会
第10期活動計画に関する打合せ

最近のアジア情勢についての意見交換など

2月15日(水)13:30~16:30 中央公民館 定例会
内容未定

3. 活いきシニア福祉の会(佐藤 重松 090-5412-5760)

1月18日(水)10:00~15:00 第26回定例会

会場:地域交流室(小手指さくら会館)小手指4-18-1

「新春初顔合わせ」食事会

地域交流室(さくら会館)での「カフェサロン」開設について

4. 楽悠クラブ (福田 晴男 事前連絡は不要です)

1月17日(火):① 例会:ベートーヴェン「交響曲第9番・合唱」
バーンスタイン、ドヴォルザーク「チェロ協奏曲」ロストロポー
ヴィチ、② 新年会(徳樹庵)

2月14日(火):プッチーニ歌劇「マノン・レスコー」他、いずれ
も 13:15~ 中央公民館8・9学習室

5. 食を通して所沢を知る会 (吉田 麗 2939-9662)

1月24日(火)10:00~12:00 ふらっと 定例会
29年度年間活動計画の話し合い。

2月7日(火)10:00~12:00 ふらっと 定例会

6. 地域の自然を考える会 (海老澤愛之助 2922-0259)

1月24日(火)14:00~新所沢公民館 定例会
打ち合わせ。その後、16:00頃より、新年会を行います。

12号地の作業ではないので間違えなきようお願いします。

7. 地球環境に学ぶ (塚本 二郎 2942-3117)

1月17日(火)9:00~11:00 柳瀬公民館の最終回 定例会
各人の研究課題発表、意見交換、年度計画ほか

2月21日(火)9:00~11:00 新所沢東公民館 定例会

8. 所沢シニア世代地域ニュー支援の会(田口 元也 090-9820-5668)

1月16日(月)15:00~17:00 中央公民館 定例会
議題 ①講座「なんでも塾2回」企画検討

②年間活動方針(案)検討

チアダンス練習日1月21日、28日 中央公民館

9. 所沢の自然と農業 (清水 仁一 2944-8835)

1月12日(木)13:00~ 三芳町伊東農園 落ち葉掃き準備

1月19日(木)13:30~所沢市内で新年会&新会員歓迎会

1月26日(木)11:00~中央公民館 市民大学ファーム総会

2月9日(木)13:00~新所沢公民館 定例会

10. 野老澤の歴史をたのしむ会 (大山 豊 2993-0818)

1月10日(火)9:00~13:00 中央公民館調理室

所沢の食「里芋おはぎ」「けんちん汁」あまった材料で箸休
めをつります。

1月19日(木) 座学鉄道遺跡~西武・軽便鉄道とマジック
中央公民館1・2号室

11. ドラマティック・カンパニー (柳澤千賀子 2968-5035)

1月21日(土)10:00~12:00 中央公民館

2月4日(土)10:00~12:00 中央公民館

2月18日(土)10:00~12:00 中央公民館

悲劇「コリオレイナス」を読み進めます。

12. 懐かしの映画・鑑賞会 (二上 拓夫 080-1250-6151)

1月24日(火)10:00~12:30 西新井町公民館

喜劇「男はつらいよ」夢枕'72年東宝八千草薫・田中絹代

2月14日(火)10:00~12:30 西新井町公民館

洋画「理由なき反抗」'56年ワーナー ジェームス・ディーン

13. 脳活サークル (加曾利厚雄 2939-2308)

1月23日(月)1月定例会 蔵の街・川越へ初詣

集合・本川越駅改札出口10:00

⇒蔵の街・川越へ初詣、巡りそしても料理 (参加者、募る)

14. 北欧の会 (樋口 俊夫 090-6483-7993)

1月24日(火)14:00~16:00 頃 松井公民館

第73回 例会 今年の計画、持ち寄り学習 DVD 観賞 他

15. 傍聴席 (高垣 輝雄 2926-7164)

1月23日(月)14:00~、中央公民館、総会

テーマ:収支報告、会則修正、年間活動計画など、一年
間の総括と、今後の基本方針を決めます。皆さんで話し合
いましょう。(詳細は倶楽部HPをご覧ください)

16. 民話の会 (仲山 富夫 090-3902-0283)

1月13日(金) 所沢小学校で「所沢の民話を学ぶ会」

1月16日(月)「ときめきライフ」の皆さんと「民話を語る会」

1月18日(水) 南小学校で「所沢の民話を学ぶ会」

17. 歴史散策クラブ (大河原 功 2943-2004)

1月7日(土)9:30 所沢駅2階改札内集合

上野・徳川將軍ゆかりの史跡を巡る

2月18日(土)9:30 所沢駅2階改札内集合

黒目川の遺跡を歩く

18. 広報部

2月10日(金)9:30~15:00 頃 生涯学習推進センター

「広場」2月号、編集会議、発行日



【私の健康法 第43回】 七転び八起き

所沢の自然と農業 西郡 貢

中国の古い言葉に、人生は五計（生計（いかに生き）、身計（身を立て）、家計（家庭を築き）、老計（歳を重ね）、死計（そして死を迎える））という言葉があります。その五計の内、老計から死計に位置する私たちがこれから残りの人生を楽しく暮らすためには、健康がいかに大切であるか、

去年は再認識した一年でした。家計時代に悪化させた血糖値を改善すべく、老計時代に達したのを期に、毎朝1時間を目途に周辺の狭山緑地を歩き、定期的にトレーニングジムで汗を流しながら、ナイスミドル講座や市民大学でのサークル活動、という社会参加等による日常生活を充実させる事により、生活態度の改善が血糖値の改善に繋がりました。

しかし、昨年夏に、人生初めて二週間にわたる入院生活を経験した。退院後、数か月間運動制限を受けたため、運動不足による体力低下をきたしました。この結果、改善してきていた血糖値が急激に悪化しました。

一度落とした体力をとり戻し、健康な体を得るには、再度目標を定め直し実行することです。その目標は入院前とほぼ同じではあるが、体力が落ちており、更に食生活の改善を付け加えながら、日常生活を充実させること、です。

七転び八起きではないが、死計時代になる前老計時代のうちに再度健康な体を取り戻し、健康な老計時代を送るべく、日々健康増進を図っていくつもりです。



富士山

むさし野俳句会（二十八年十二月）作品抄

炭ついでまた語り出す女将かな	荒幡千鶴子	千仞の吊り橋そりり冬紅葉	高梨千代
冬の富士つつ抜けの空ありにけり	飯泉陽子	初雪や兄を葬りて帰り来ぬ	高橋三加子
老いてなほ内緒ばなしや落葉焚	井出昇	病み上がり青菜と鱧のお吸ひもの	高光泉
強面の姿に淡き鱧であり	海老澤愛之助	鱧ちりの湯気からぬつと女将かな	利根川啓一
仕事師は手套抛つて小昼かな	粕谷のぼる	海鼠裂く瀬戸内の香のなだるるや	中嶋弘子
手袋のまま別れを告げし夜	河瀬俊彦	冬木立大地の鼓動きこえけり	中村直子
セーターの六花の刺繍胸高し	小林貞夫	駒子似の女将の訛真鱧鍋	橋本佑子
花八手ひねもす習ふ二重跳び	小林典子	職人の肘で抄る畳替	平栗彰子
渡良瀬に水漬く村跡冬木の芽	佐藤八郎	菜園の杭に手袋鍬休み	宮本信生
潮騒の時に大きく鱧の鍋	白神恵子	ふと我に返る年の瀬仕舞風呂	鈴木征子



《編集後記》

▼「広場」は先月で、通巻100号を迎えた。2007年12月の第1号から10年をかけて、毎月欠かすことなく発行してきた先輩諸氏の並々ならぬ努力の積み重ねに敬意を表したい。市民大学20期修了の若輩者である筆者にとっては、この継続のおかげで、現在のところざわ倶楽部が存在するのだと認識している。ICT（情報通信技術）の時代ではあるが、この広場の紙のぬくもりには捨てがたいものがある。▼「継続は力なり」ということばがよく使われている。この語源は大正から昭和初期に活躍した住岡夜晃という宗教家の著書『讚嘆の詩』に「青年よ 強くなれ・・・」から始まる詩に著されたことばらしいが、あまり知られていないようだ。「広場」を継続することによる「力強さ」を象徴しているような気がしている。▼2017年のシンポジウムのテーマは「生涯学習」である。青年の気持ちを持ち、生涯学習を継続する会員諸氏のこれからを考える良い年となることを期待したい。（玉上）

「広場」問合せ 海老澤愛之助 (04-2922-0259)

川柳⑩

課題「印象」

発表表

中島峯生 選

あおっぱな垂れてたあの子今はじじ	どうし
歯が抜けて爺と婆とが高笑い	丘の河童
印象で合格したと陰口を	海さとる
印象を良くしたいのかゴマをする	庵閑子
やさし気なまるくなりたいたい四角顔	りんご好き
マネモネといえばアレアレ印象派	突拍子

「自由句」

新年が来る度思うまだ若い	海さとる
初詣百円だけでいいですか	突拍子
僑笑が今は吐笑我が妻よ	丘の河童
マニキュアの指先なめて本めくる	どうし
鍋奉行仕切りすぎたら食べられず	庵閑子
今日もまたじじばは集うクラシク	りんご好き

次回の課題 「違い」又「自由句」 1月20日締め切り

担当 中島まで

宛先 mh-naka@jcom.home.ne.jp

FAX04-2928-1161